



担い手通信



JA bank Mie

Topic

今月の話題

播種向け麦の黒節病対策 種子消毒を徹底

遅まき、雨よけ組み合わせ 農研機構

農 研機構・中央農業研究センターは、麦の難防除病害、黒節病の防除対策をまとめました。種子伝染性の同病害。種子生産地向けの技術として、種子消毒に遅まき、雨よけ栽培などを合わせた総合的防除体系を組み立てました。「健全な種子を作っていれば、甚大な被害はあり得ない」と、種子産地での技術利用を促します。

黒節病は麦の節の部分がかげ色になり、節の上が枯れていきます。病原菌は気温22〜24度で活発になるため、暖冬年で一時的に寒波や降雨を受けて麦がダメージを受けると、発生しやすくなります。「全国で10億円くらいの被害があるのではないか」



黒節病の発生抑制効果を試すため、圃場に設置した簡易雨よけ栽培施設（中央農研センター提供）

と農研機構・中央農業研究センターではみています。

種子伝染性のため、きれいな種子を使うことが重要です。対策は種子消毒を重視し、使える薬剤を紹介しています。

昨年秋に金属銀を主成分とするシードラック水和剤が種子消毒用に登録されました。Zボルドーも種子消毒に使えます。同病害以外の種子伝染性病害にも有効なため、冷水温湯浸法を組み合わせて「抑制効果が高くなる」と種子消毒の徹底

を勧めています。

播種（はしゆ）時期の試験では、年によって差はありますが、遅まきで、黒節病の発生を「減少させることができ」といいます。小麦の試験では、12月上旬の播種で減収はほとんどありませんでした。

対策では、強い雨や風が麦に当たらないように、採種圃場（ほじょう）で簡易雨よけや、風よけ栽培で発病が抑えられることも紹介しています。1月中旬に施設を設置したところ、何もない圃場は発病率が14・7%でしたが、風よけ栽培は7・6%、簡易雨よけ栽培は0・3%まで下がりました。農研機構・中央農業研究センターは、種子消毒や遅まき、雨よけ栽培を組み合わせた総合防除で、汚染率の低い種子を生産するよ

う呼び掛けています。

「麦類で増加する黒節病などの種子伝染性病害を防ぐ総合管理技術の開発」として、茨城県や埼玉県、三重県、香川県、山口県の研究機関と進めてきました。成果は、農研機構・中央農業研究センターでパンフレットにまとめました。

数字でみえる 三重県の農と食

53%

県内の農と食に関する統計データを用い、農業の現状を数字から読み解きます。

基盤整備済み農地の 担い手への集積率

三重県食を担う農業及び農村の活性化に関する基本計画平成27年度実施状況報告によると、県内での基盤整備済み農地の担い手への集積率は、平成27年度で53%です。集積率は、同計画の策定された平成23年度の33%から、年々増加しています。県は、生産基盤の整備と一体的に、担い手への農地集積を進めるとしています。

菟野町

マコモ田植え始まる 全て手作業で栽培

菟野町で5月1日、マコモの田植えが始まった。現在の同町の作付面積は2.5%。栽培は全て手作業で行い、5月に植えたマコモは2桁以上に成長し、9月下旬~11月に収穫期を迎える。黒穂(くろぼ)菌により茎がタケノコのように白く膨らんで太くなった茎の部分をマコモタケと呼ぶ。マコモタケは、食材として、料亭や中華料理店などで利用される。収穫したマコモタケは、JAみえきたファーマーズマーケット「四季菜」と、道の駅菟野で販売する。

(2017/5/4 ワイド2東海)

JA津安芸

コンテナ出荷で効率化 JA津安芸栗真集荷場

津市のJA津安芸栗真集荷場では、多い日にはキュウリを日量約2トン出荷する。そのため、作業効率を上げようとこれまでの段ボール箱での出荷を見直し、昨秋からコンテナを本格的に導入した。生産者は選別の手間が省けて新鮮なものを早く届けることができる。選果場でも作業効率が格段に上がった。コンテナ出荷は1ケース10キロと量は段ボール箱出荷の倍で、秀のサイズ混合で出せるのが利点だ。現在は、出荷全体の7割ほどを占める。JA津北部営農センターの職員は「販売高を上げて生産者の所得向上を目指したい」と話した。

(2017/5/4 ワイド2東海)

JA三重中央

土の感触に歓声上がる 小学生を指導

JA三重中央管内にある津市立一志西小学校5年生60人と市立一志東小学校5年生61人は5月上旬、それぞれ田植え体験をした。総合学習の一環として、一志町歴史語り部の会員とJA職員の指導で、毎年行っている。初めて田んぼに入る児童がほとんどで、素足に伝わる土の感触に歓声を上げていた。児童は「最初は土が冷たくて気持ち悪かったけど慣れてきたら楽しかった。またやりたい」と話した。

(2017/5/20 県版三重)

ピックアップ pick up

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介する。

マルドリ方式で生産する温州ミカン 水分チェック機器活用で糖度上昇

周年マルチ点滴かん水同時施肥法(マルドリ方式)で

生産する温州ミカンについて三重県農業研究所は、水分チェック機器を活用した水分管理によって、露地と比べて糖度が1%向上することを確認しました。高品質と安定生産に向けた栽培技術への期待が高まっています。

水分管理に当たっては、3つの機器を使います。まず「簡易土壌水分計」で土壌の乾きを確認します。水分計の水位が連続して下がるよう

になると、木にも水分ストレスがかかる乾き具合のため、「水分チェックボール」で木の水分状態を調べます。青いチェックボールより実際のミカンが明らかに柔らかければ、かん水が必要で、かん水量の過不足は「水分ストレス表示シート」の反応時間の変化で判断します。同研究所は、簡易土壌水分計は1本約1万円、水分チェックボールは1個約4000円、水分ストレス表示シートは1枚約1500円で購入できるとしています。

STEP1

圃地の乾きを大まかにチェック

簡易土壌水分計 (農研機構開発)

- 全長120cm
- 20cmの深さへ埋め込み、水を入れる
- pH2.8で水位が下がり出す

STEP2

樹の水分不足度を直接チェック

かん水

- 日没時にチェックする
- 基準の色(青色)と果実を握り比べる
- 明らかに柔らかければかん水必要と判断

水分チェックボール (三重県開発)

STEP3

樹の水分不足度を直接チェック

かん水の充足度をチェック

水分ストレス表示シート (農研機構開発)

- 葉裏に貼り付ける
- 赤くなるまでの反応時間でチェック

かん水量は、1日1~2リットル程度

お問い合わせ先 三重県農業研究所 紀南果樹研究室 ☎05979-2-0008

短期の運転資金が必要になった方に



認定農業者向けの 低利・便利な 短期運転資金です。

- 家畜等の購入資金
- 種苗代・肥料代・雇用労賃などに
- 農舎・畜舎の補修 農業機械の修繕費

スーパーS資金

農業経営改善促進資金

今ならJAバンク利子補給制度により 最大年1%の利子補給が受けられます。

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。
<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/> 平成29年5月現在

《金利情報》平成29年5月24日現在

農業近代化資金

実質金利 年0%~0.30% (固定金利)

※認定農業者の方は、市町や(公財)農林水産長期金融協会の利子補給等により、お借入ができます。

スーパーS資金

年1.5% (変動金利)